

令和元年度（平成31）年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校では、学校の特色及び工業高校としての社会的ニーズも考慮して「学校経営計画」を策定し、その中の「学校アクションプラン」において、全日制では4、定時制では2、合計6の重点課題を設定した。各重点課題に対する取り組み状況や評価等はアクションプランに記載したとおりである。

学力と学習意欲の向上は学校の最も追求すべき課題であり、本校では学力と学習意欲の向上につなげるために資格取得の推進を図り、生徒自ら積極的に取り組む姿勢を検定合格または資格取得数を指標として設定しているが、評議員からは、さらに難関で就職してすぐに役立つ資格への取り組みが望まれた。また、生徒指導の充実については、特に交通安全指導を粘り強く行うことを求められた。さらに、モラルの向上に努めることの必要性について意見をいただいた。進路指導については、昨年同様に75%以上の生徒が順調に就職し、卒業生が諸方面で頑張っていることを高く評価していただいた。特別活動に関しては、近年の各部活動、コンテスト等の成果が顕著であったことや、体育大会や球技大会が大きく盛り上がり、生徒の積極的な取り組みがうかがえることが喜ばしい、と評価していただいた。

定時制の重点課題については、進路実現に向け、生徒個々の資質向上を図るための資格取得指導をはじめとした取り組みを継続してもらいたい、との意見をいただいた。

学校評議員会は2回開催し、重点課題について説明と報告を行った。評議員の方々からは、本校の取り組みについて評価を頂くとともに、数多くの示唆に富んだご助言や励ましの言葉を頂戴した。こうして伺ったご意見を、今後のより良い学校経営に生かしていきたい。

7 次年度へ向けての課題と方策

- (1) 今年度の学校評価の結果に基づき、本校の現状と課題について職員全体で謙虚に受け止め、計画の改善と取り組み体制の強化に努めていく。
- (2) 達成目標の妥当性を十分に検討し、また具体的な調査方法についても工夫して、重点課題への効果的な取り組みを目指す。
- (3) アクションプランを公開することにより、学校の取り組みに対する地域や保護者の理解を頂き、学校とのより緊密な連携を目指していく。
- (4) 本学校評価システムを通して、職員全体が学校の教育活動への共通理解を深め、生徒の人間形成や自己実現に向けた、真に有意義な教育活動に結びつけるように努める。